

## ● 11/21 陳情署名(9回目)が教育文化委員会で審査され、継続審議へ

昨年11月21日(水)の常任委員会で陳情「城野遺跡公園の整備について」の審査が行われ、「継続審議」となりました。否決はされないものの、2度と審議されることもありません。①西エリアの遺跡広場に、ガイダンス施設、トイレ、駐車場、木陰やベンチの設置、②広場整備は議会答弁の通り地元住民の意見を聞くべき、③隠されたままの土地取得しなかった理由の公表を求める1038筆の署名を届けました。事務局長が口頭陳情し、各委員(議員)に北橋市長の城野遺跡に関する文化財行政のチェック機能を期待しましたが、発言したのは共産党の藤元、藤沢議員のみでした。

## ● 12/21 北橋市長に「城野遺跡の保存活用に関する公開質問状」を提出 2/18 市長の回答等について文化企画課と懇談

市長選挙(1/27 投票)に向けて、12月21日に北橋市長に「公開質問状」を提出し、1月10日付で回答がありました(全文は会のホームページで公開)。

今回、文化企画課の担当者が変わり、初めての文書回答に誠意を感じましたが、その内容はこれまでの繰り返しで、質問を無視したり、はぐらかすことに終始していました。

2/18の文化企画課との懇談では、①1/10付市長の回答全般、②市計画の「遺跡広場」、③西エリアの開発、④埋蔵文化財センターの八幡市民会館への移転について話し合いました。事前に届けていた質問に沿って2時間以上話し合いましたが、改めて、開発優先の北橋市政のもと文化企画課が市の貴重な埋蔵文化財の保存活用の責任を果たせていないことがわかりました。

市計画の「遺跡広場」が1.5m掘削され、方形周溝墓まで一部損壊したのは、開発業者だけではなく、市の杜撰な埋蔵文化財の保護行政にも重大な責任があります。市の文化財行政を見直すためにも、遺跡破壊の責任をあいまいにするわけにはいきません。

## ● 『遺跡を守り、語り継ぐ』ということ……顧問の先生方(西谷先生・近藤先生)の近況

会報第2号では、当会顧問の近藤英夫先生(日本考古学協会副会長、東海大学名誉教授)にお会いした際のインタビュー記事を掲載しましたが、紙幅の都合で途中になっていました。先生の遺跡への熱い思いを込めたお仕事をもうひとつご紹介します。

近藤先生は相模原市にある津久井湖城山公園の保存・整備に関われ、中世の城跡が住民のすぐ近くの里山に存在することから、その景観を保全し、後世に受け継ぐために様々な仕掛けを用意されました。「津久井城整備のための暗黙コード ～公園事業者の経験則～」と銘打ち、「地形の改変は避ける」「まがいものを作らない」「地元の理解と協力、信頼を得る」「適正な保存と活用を推進する」などを地元住民、専門家、行政、大学と情報共有し、文化財が地域の紐帯になることを学ばれたそうです。

遺跡調査による「土地の記憶」の把握は、今後そこに生活してゆく人々に豊かな情報を提供し、地域を支える人材や財産の育成につながっていくということです。遺跡を守り、語り継ぐノウハウはこうした地道な作業を一步一步進めていくことだと感じました。

つぎに、西谷正先生ですが、先生は昨年文化庁から50周年記念表彰を受けられ、ご自身の著書「地域の考古学 私の考古学講義」の出版、そして何よりも傘寿を迎えられ、今年もますますご活躍のことと思います。福岡県内外で活動中の「東アジアの古代史を楽しむ会」の名誉会員でもあられる先生に、会報新春号の取材で体調管理について伺ったところ、「還暦でリセットされ、傘寿で二度目の成人式を迎え、7年先の予定まで組み込んで、お酒も少し強くなったみたい」とおっしゃられたそうです。また、嬉しいお言葉として、「この会も城野遺跡公園を実現する会と連携し、支援や協力しては？」と発言されました。私たちにとってどんなに心強いエールでしょうか。西谷先生、ありがとうございます。そしていつまでもお元気で「城野遺跡公園を実現する会」にご指導・ご助言いただければと思います。

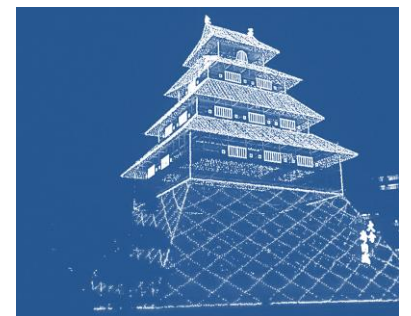
## ● ホットな話題……「大分市 府内城の仮想天守 夜間ライトアップ」

大分市では、戦国時代末期に築かれた府内城仮想天守の夜間ライトアップが先日まで行われ、幻想的な雰囲気をたくさんの市民や観光客が楽しみました。

豊後府内城は江戸中期に火災で天守閣が消失し、その後は小倉城のように再建されていませんが、石垣の天守台だけでも当時の威容を想像できますし、他にも櫓や大手門、廊下橋などが復元され、県や市の指定文化財にもなっています。

小倉城は、昭和34年にコンクリート造りで復元された模擬天守ですが、天守閣の形は本来のものとは違い、見映えを重視する三角破風が取り付けられました。いわばニセモノの天守閣ですから、市の文化財指定すら受けておらず、日本の名城百選にもなっていません。

このようなライトアップが可能なら、せめて小倉城を夜間だけでも本来の「層塔型」とよばれるものに変身させてはどうでしょうか。それにより、夜の賑わいがつくられ、観光客の北九州市に宿泊する機会も増えると思うのですが……。



LEDで浮かび上がる大分・府内城

## <それなんのこ? 考古学用語解説コーナー>

### 玉作り工房(たまづくりこうぼう)

弥生時代には、北陸地方や山陰地方を中心に石を使った玉作りが盛んに行われた。九州では、糸島市潤地頭給遺跡で大規模な玉作り工房(玉を製作する建物のこと)が見つかったが、その数年後北九州市城野遺跡でも、集落の中で水晶と碧玉という、最も美しい石材による玉作りを2軒の竪穴住居跡の中で行っていたことがわかった。これは九州2例目の画期的発見となった。時は邪馬台国の女王卑弥呼が生きていた頃。城野遺跡の凄さは方形周溝墓だけではなく、この玉作りも重要な要素の一つである。

城野遺跡の各種玉類 →



発行日 2019年3月15日  
発行者 城野遺跡公園を実現する会  
編集担当 高橋徹雄  
連絡先 永田由起(事務局長)  
TEL 090-3079-6503 FAX 093-951-3524  
振替口座 ゆうちょ銀行 01780-0-147174  
「城野遺跡公園を実現する会」

## 第1回定期総会&講演会 開催のご案内

日時 5月26日(日)13:00~

場所 未定 ぜひご参加ください!

会場等の詳細は決まり次第、「案内状」をお送りいたしますので、予定しておいてください。城野遺跡の朱塗り石棺や文化財行政に詳しい講師を予定。

## 陳情署名にご協力ください

埋蔵文化財軽視の「埋蔵文化財センターの八幡市民会館への移転反対」の署名です。10回目です!